



小さな社会人を育てたい

不思議に思うことがあります。高校生になって中学校に来ると、多くの生徒が礼儀正しく敬語を使うのです。中学校時代、あれだけ“ため口”を使っていた生徒が、なぜこんなに変身(変心)するのでしょうか？

もちろん、高校での指導のおかげもあるでしょう。また、社会に一步近づき、社会人としての自覚が芽生え始めたからかもしれません。あるいは、義務教育時代の“甘さ”に気づいたのでしょくか・・・。

1年生は、五色台集団宿泊学習で自分の思いどおりにならない集団生活の厳しさ、2年生は、職場体験で一足先に社会人を経験し、働くことの大変さなど社会の厳しさを味わいました。でも、どちらも4日間だけ。もしこれが毎日続くと、耐えられなくなる人もいでしょう。でも、これは社会に出ると当たり前です。

そして、3年生は、いよいよ今日から私立高校の入試が始まりました。社会に出て行くためには、目の前に立ちはだかる“受験”という壁を乗り越えていかなければなりません。

中学3年間は、教科の学力だけでなく、小さな社会人として、自分で判断する力、困難を乗り越えていく力、多様な人間関係を結んでいく力など、社会の一員としての基礎を身につけていく時期でもあるのです。

「今の子どもたちは打たれ弱い。その理由の一つとして考えられるのは、この子どもたちは、海で泳ぎを習わず、プールで習ってきているからだ」と言った人がいます。つまり、波にぶつかる機会がないまま育ててしまったために、世間の荒波にぶつかった時に、対処できないんだということでした。

道路についても同じことが言えます。今やほとんどが舗装されていて、デコボコの道、泥んこの道、石ころ道を歩くことは少なくなりました。しかしながら、私たちの人生は決して平坦な道ばかりではなく、波風の立たない、適当な温度調整がされたプールでもないのです。たくさんの障害物が立ちはだかり、行く手をふさぐ壁となっています。

育っている間、したいことは何でもさせてもらい、したくないことはしなくてもいい。そして、それが“自由”であるかのように育てられた子どもたちは、壁にぶつかった時にどうしてよいかわからず、落ち込んだり、生きる勇気まで失ってしまうことがあります。

“壁”というものは、人間が成長するためになくしてはならないものです。世の中の厳しさを知るために、何もかもが自分の思い通りに行かないことに気づくために必要なものです。壁にぶつかることで、人は、今まで持っていた自分の価値観と異なる価値観があることに目覚め、自分を振り返り、自分の生き方、主義主張を見直すよい機会ともなります。

“壁”はかくて必ずしも、乗り越えないといけないものばかりではなく、必要な存在でもあるのです。世の大人はもちろんですが、親、教師の立場にある人たちこそは、愛情を込めて、子どもの壁になるべきだと考えています。

※『面倒だから、しよう』(渡辺和子著)から引用

明後日、マリンウェーブで三豊市の成人式があります。社会人(社会の一員)として自覚ある態度で臨んでほしいと願います。

やっぱ好きやねん

歌手のやしきたかじんさんが亡くなられたというニュースが流れ、多くの人々が悲しみに包まれています。なにかと話題の多い人でしたが、

たくさんの人から慕われていたことも伝わってきました。そして、彼の代表曲である『やっぱ好きやねん』が、テレビやラジオで何度も紹介されています。この曲は、女性の心を歌った曲で、♪やっぱ好きやねん 悔しいけどあかん あんたよう忘れられん・・・というフレーズが印象的です。

3年生は、あと3か月で詫間中学校を卒業していきます。1・2年も、今の学級でいられるのも残りわずかです。いやな思いをした人もいられるかも知れませんが、最後はこの学校(学級)が「やっぱ好きやねん」と言いながらサヨナラしてほしいものです。そのためにも、この3学期の学校生活を大切にしましょう。

1年中で寒さが最も厳しい季節を迎えますが、いつも心がぽかぽかでいられるような温かい人間関係を築きあげてください。卒業式まであと64日、修了式まであと74日です。